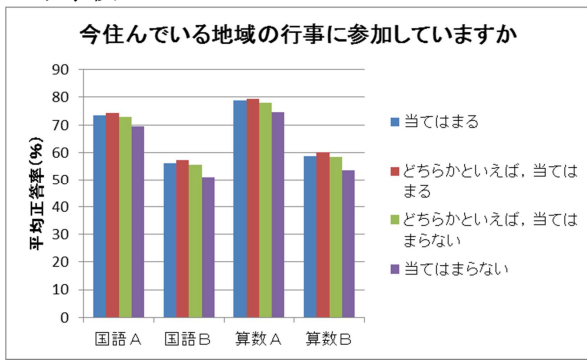


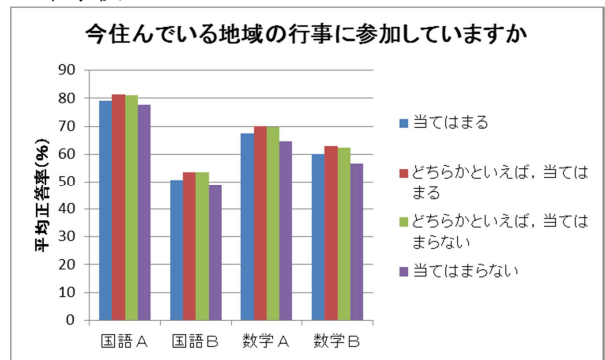
(5) 県全体で子どもの力を伸ばす

【質問項目】 今住んでいる地域の行事に参加していますか

小学校

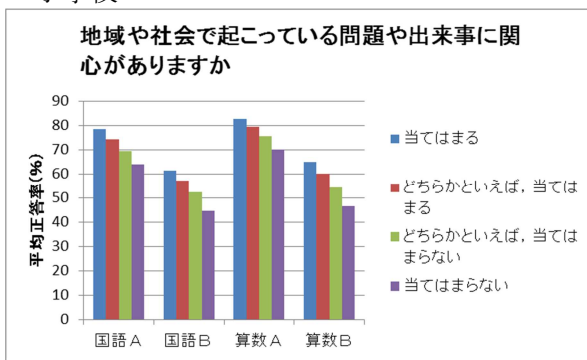


中学校

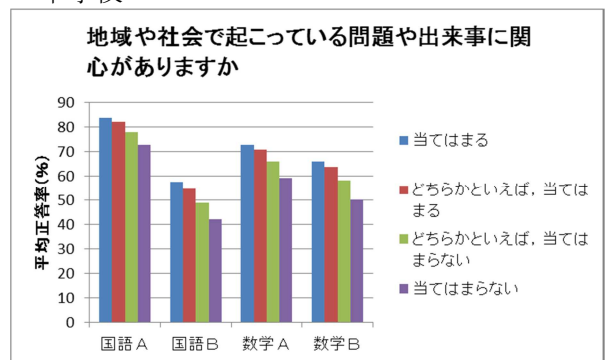


【質問項目】 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

小学校

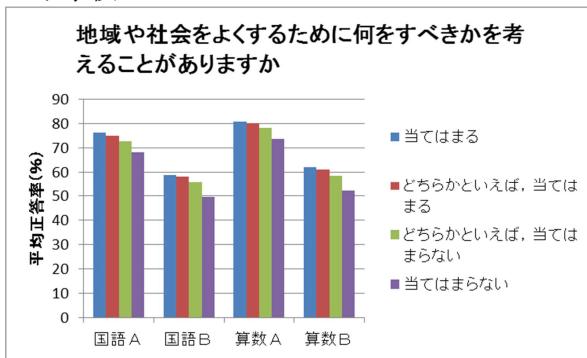


中学校

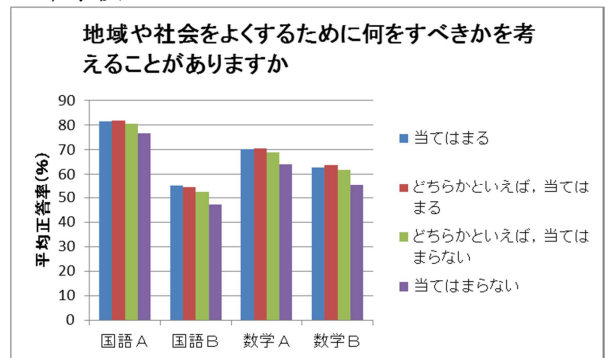


【質問項目】 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

小学校

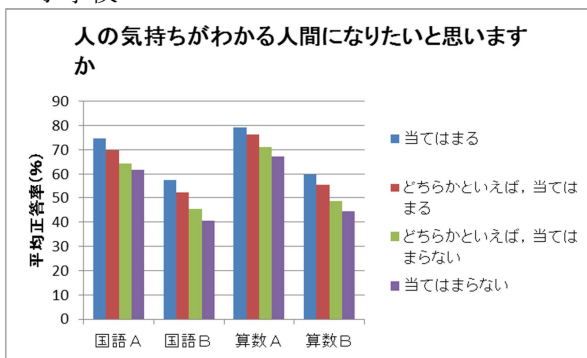


中学校

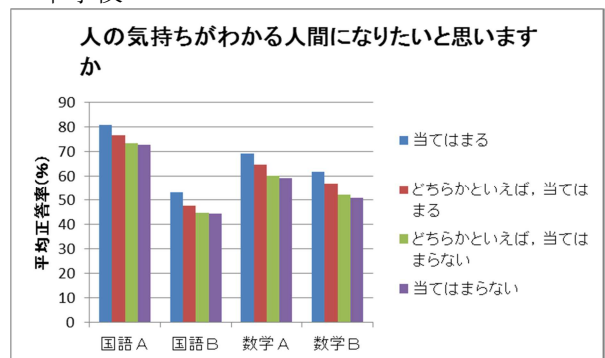


【質問項目】 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

小学校



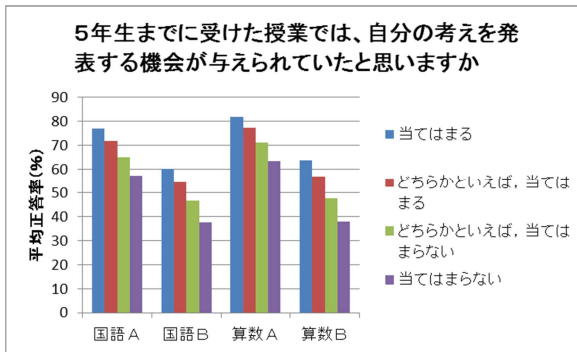
中学校



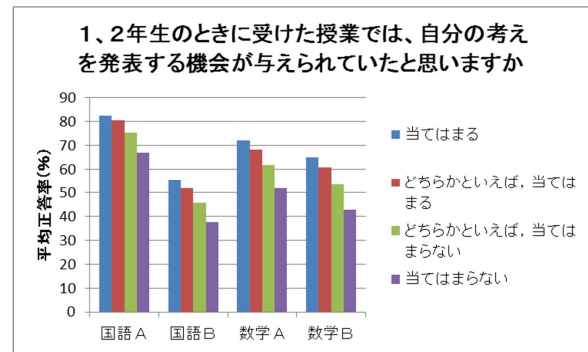
(6) 授業を改善する

【質問項目】 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか

小学校

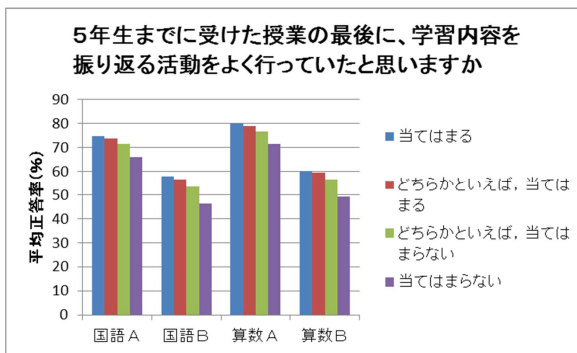


中学校

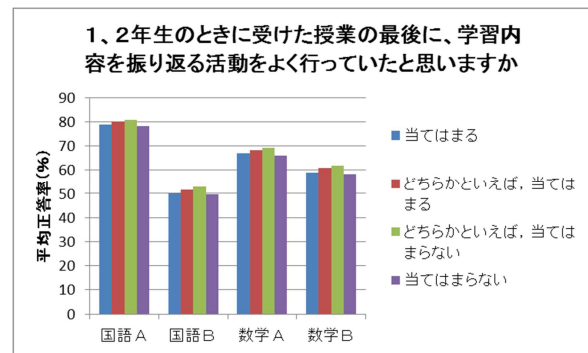


【質問項目】 授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか

小学校

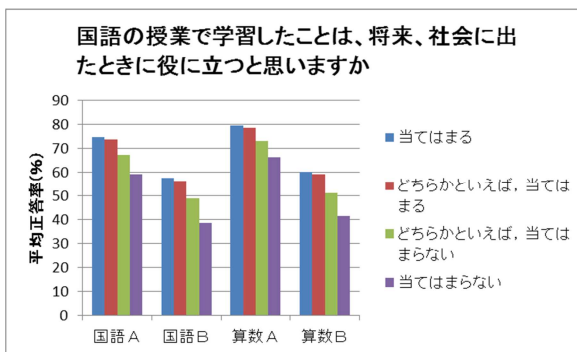


中学校

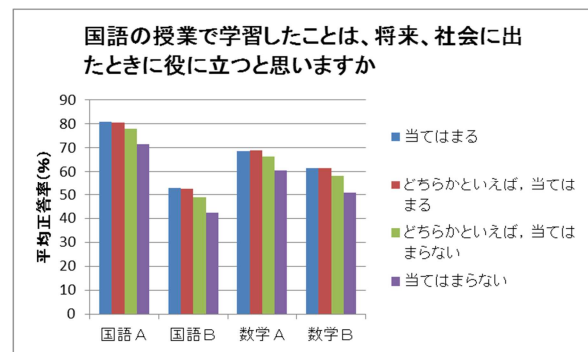


【質問項目】 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

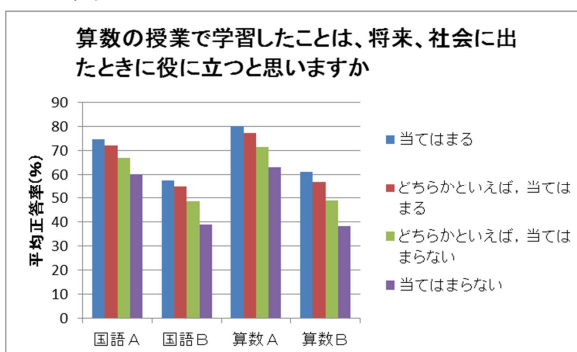


中学校

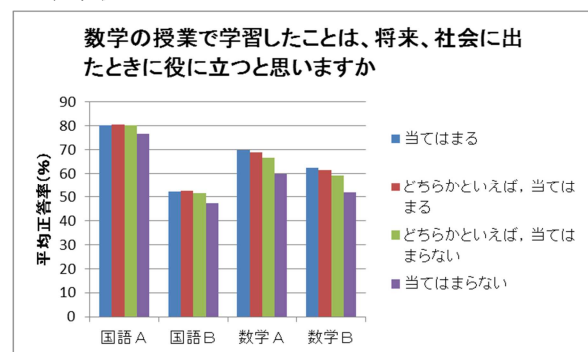


【質問項目】 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校



中学校



資料4 学ぶ力向上のための指導実践目標

めざす子ども像

- ・仲間と周囲とのつながりを大切に、自ら進んで学び、自分の将来を真剣に考えることのできる子どもを育てる
- ・互いの良さを認め尊重し、ほめることで自尊感情を高め、自ら進んで挑戦し、やり抜くことのできる子どもを育てる

学習 伝え合い、学び合いを中心に、共に高め合うことができる子どもの育成
生活 他者の個性を尊重しつつ、自己の個性を発揮しながら自立できる子どもの育成

中3 中2	学びの意義を考え、深める 自分自身が、自分の将来に対して明確な目標を持ち、自分に合った学び方で、志をもって学習やその他の活動において学びを深める態度を育む。	学習指導	仮説を立て、推論することができる時期であり、これまで身に付けたことを発展させ、自ら課題を見つけ、自分に合った学び方で主体的に解決し、学習内容の深化と個性の伸長を図る。	学級活動	自主独立の要求が高まることから、生徒の自発的自治的な活動を尊重し、生徒が自らの力で組織を作り、計画を立て、協力して話し合えるようにする。生徒の心情をよく理解し、指導・援助の在り方を工夫して、自主的、実践的な活動を促す。
		心の教育	人生をよりよく生きたいという願いが強くなるため、生き方について主体的に考え、他者と協力して、自立した生活を営む力を育て、法やきまりの意義の理解や公德心を育成する。	キャリア能力	社会における自らの役割や将来の生き方などについて考える時期であり、自分らしい生き方を実現することについてしっかりと考え、目標を立てて計画的に取り組むことができるようにする。
		体力向上	体力・運動能力が発達し、運動実施の効果も大きくなることから、各種の運動の楽しさや喜びを味わい、体力を高める運動の計画を立て実践できるように育成する。	家庭教育	大人への移行を果たそうとする子どもを見守り、対話し、理解し合い、将来の職業や進路について家族で共に考え、自ら生活リズムの改善が図れるよう促す。
中1 小6 小5	個性を伸ばし主体的に学ぶ 児童生徒自身が、あらゆる活動に主体的に取り組むことを基盤に、自分で考えたり、物事を適切に選択したりして学びが広がり豊かになるよう育む。	学習指導	仮説や想定など論理的な思考が発達する時期であり、既有的な知識や経験を活用して、主体的に問題を解決し、論理的、抽象的な思考力などの育成を図る。	学級活動	教師に頼らず自主的に計画できるようになるため、児童生徒が活動計画を作成し、役割を分担して進められるようにする。その際、自分の言葉で話したり、建設的な話し合いになるようにしたり、話し合いの質的向上を図る。
		心の教育	自律的な態度、責任感、批判力などがついてくる時期であり、自己肯定感を育成するとともに、集団における役割の自覚や責任感を育み、実社会への興味・関心を持たせる。	キャリア能力	自分の役割や責任を自覚する時期であり、苦手なことにも挑戦し、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分の自信につながり、自らの夢や希望、あこがれる自己のイメージを持てるようにする。
		体力向上	物事や、自分のことを客観的に捉え、知的な活動が活発になる時期であり、各種の運動を楽しむ行いの中で、体力を高める運動の行い方を知り実践できるようにする。	家庭教育	子どもが失敗したり悩んだりした時には、家族で受け止めることが大切である。基本的な生活習慣を定着させ、自ら生活リズムの改善を図れるよう励ます。
小4 小3	自ら学ぶ力を獲得する 既有的な学び方を用いて問題解決を図りながら、基本的な原理・原則を繰り返し学ぶことで、自分ならではの資質や能力を見出し、自分の個性を自覚するよう育む。	学習指導	自分と他者との考えや視点を区別できるようになるため、学習規律や基礎的・基本的な知識や技能を繰り返し指導し、定着を図るとともに、思考力・判断力を育成する。	学級活動	ある程度見通しをもった話し合いができるようになるため、自分たちで学級会を運営していけるようになる。話し合い活動の計画を作成する役割を設け、十分指導しながら、少しずつ自主的にできるようにしていく。
		心の教育	自己中心的な行動をしてしまう傾向もあることから、自主性を尊重しつつ、学校生活を通して集団の規則を理解させるとともに、自他を尊重する意識や他者への思いやりの心などを育てる。	キャリア能力	友達と協力して活動する中でかわりを深める時期であり、自分の良いところを見つけ、友達のよさを認め、自分の持ち味や役割が自覚できるようにする。
		体力向上	思考と活動の分化が進み、自分の動きを意識したり、理解したりすることができ始めるため、運動を楽しむ行いの中で、基本的な動きを高めることができるよう育成する。	家庭教育	家事の手伝いや役割を担ったり、様々な体験や活動に挑戦させたりすることができ始めるため、子どもを認め、励まし、自主性や規範意識の基礎となる力を育む。
小2 小1	自分のよさに気付く 児童自身が、学習活動やその他の活動の中で、自分の適性や興味・関心などに気付いたり、確かめたりしながら、自分のよさに気付くよう育む。	学習指導	目に見えるような物事については、論理的に操作できるようになる時期であり、学習規律や学ぶ姿勢を育むとともに、具体物での学習や体験することを通して基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。	学級活動	自分の意見を主張することのみに集中することがあるため、児童の自主性を尊重しつつも、互いの意見をよく聞いて助け合いながら学級生活をよくするための話し合いができるようにする。
		心の教育	自己中心性は色濃く残っているが、他人の立場を認めたり、理解したりする能力が発達してくるため、集団や社会のルールを守る態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成を図る。	キャリア能力	小学校生活に適應する時期であり、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら、自分の好きなことを見つけて伸び伸びと活動できるようにする。
		体力向上	思考と活動が未分化な時期にあり、「動くこと」と「考えること」が同時に進むので、運動遊びを楽しむ行いの中で、基本的な動きを広げることができるよう育成する。	家庭教育	社会のルールや家庭のルール、善悪の判断など、社会性を身に付けさせるとともに、基本的な生活習慣の定着を図り、子どものやる気を伸ばす。
就学前	自我の芽生え 幼児が、生活の中で自分の興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる自我の芽生えを育む。	学習指導	直接的な体験を通して、物事にかかわろうとする意欲や態度などが培われる時期であり、身近な社会生活、生命や自然との関わりの中で、基本的な学びの姿勢を身に付け、思考力の芽生えを培う。	話し合い	自分の話を聞いてもらうことにより、自分も人の話もよく聞こうとする気持ちになる。人の話を聞き、自分の経験したことや考えたことを話す中で、相互に伝え合う喜びを味わうことができるようにする。
		心の教育	「良いことと悪いこと」が存在することに気付かせたり、社会生活上のきまりを守ろうとする気持ちを育てたりするなど、道徳性の芽生えを培う。	キャリア能力	特定の大人との愛着関係を形成する時期であり、認められる喜びをもち、友達と仲良くし、きまりを守って、自分でできることは自分でできるようにする。
		体力向上	神経系の発達が著しく、運動を調整する能力を高め、おくことが重要な時期であり、体を動かす遊びを夢中になっている中で、基本的な動きを身につけることができるよう育成する。	家庭教育	子どもと一緒に話をすることで、コミュニケーション能力を育むとともに、遊びや生活の中で、ほめたり認めたりしながら、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

お わ り に

「学ぶ力向上 滋賀プラン」では、夢と生きる力を育てる教育の基礎となるものが「学ぶ力」であり、平均正答率のようにテストで測れるものだけではなく、その根っこにある「学ぶ力」を高めてこそ真の学力向上に至るものと考え、総合的な学力向上をめざしました。

このプランは、2年スパンで4年間の中長期の計画ですが、併せて、目の前の子どもたちに対して、すぐに取り組む必要があることについては、できることから改善していくことも重要です。とりわけ、学校の授業が十分に理解できず、基礎的・基本的な知識・技能の習得や定着が十分ではない子どもたちへの支援は急務であり、早期に取り組む効果を上げる必要があります。

今後は、このプランをもとに子どもたち一人ひとりに夢と生きる力を育てるため、目の前の子どもたちの「学ぶ力」の向上に全力を尽くすことができるよう、各学校・園、家庭、地域など県全体で力を合わせて取り組むことが重要です。

学ぶ力向上 滋賀プラン 平成27年(2015年)3月

このプランについてのご意見やお問い合わせは、下記までお願いします。

滋賀県教育委員会事務局 学校教育課 学力向上担当

電話 077-528-4578

FAX 077-528-4953

E-mail ma0505@pref.shiga.lg.jp